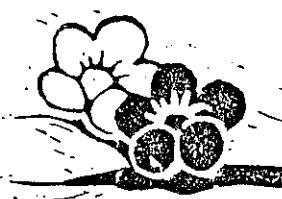


勝林寺夕報

慈光はるかに かふらしめ
ひかりのいたる ところには
法喜をうとぞ のべたまう
大安慰を 帰命せよ。



「愛のよろこび」ということがあります。
人を愛するときのよろこびです。
人生にはいろいろなよろこびがありますが、た
いていは得手勝手な欲望充足のよろこびです。
ですからそのよろこびは、すぐに悲しみ
や憎しみにかわってしまいます。
親鸞さまはそのような「愛のよろこび」もしよ
せん「すえ通ら」ない愛であり「この慈悲始終な
し」ともおつしやいます。

愛しているつもりでいても、その愛が裏切られ
ると、たちまち愛は憎しみにかわります。
愛するつもりでしてあげたことも裏目に結果す
ることもしばしばです。そうなつたとき絶望と悲
しみにおそれます。
人の世の愛は得手勝手なもので、それだけにい
らだしくそして盲目的です。
貪欲から出る愛、嗔恚に結びつく愛、愚痴盲目
の愛、それがこの世の愛です。
「愛のよろこび」はつまりは「愛の悲しみ」で
す。

しかし私たち親子・夫婦・きょうだい・隣人の
あいだには、ほんとにそんな悲しい愛しかないの
でしようか・いつ憎悪とかわるかしれないよう
な愛しかないのでしようか。

親鸞さまは右のご和讃の「法喜」ということば

の左側に小さな字で次のようなことばを書き込
んでおられます。

歎喜光仏ヲ法喜トイウ。コレハ貪欲煩惱患

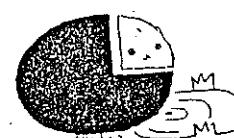
痴ノ間ヲケサン料ナリ

阿弥陀如来さまを歎喜光仏とよばれます。
三毒の煩惱にまみれた愛ではなくて、ほんと
うに清淨真実な愛ーそれを仏教では慈悲とい
ますーのよろこびをあたえてくださる如来さま
だからです。

親鸞さまは、煩惱汚染の私がそれでも清淨純
粹に人をいつくしむことのできる身となれるの
は、その私が先ずはるかおおきな如來の慈悲に
おさめとられている身と生れかわさせていただ
いたときなのだ、とおつしやるのです。
愛することは、如來から無限に愛されている
なかではじめて可能ということです。「淨土の
慈悲」と親鸞さまがおつしやるのはこのことで
す。

「慈光」というのは慈悲の光のほとけさまと
いうことです。「光」というのは智慧のことです。「智慧の
光明はかりなし」とうたわれておりました。
ですからいま「慈光」と言われたのは、この
ですからいま「慈光」と言われたのは、この
「みのりを開く会」

ほどこしは
ほどこされている
よろこびの
おすそわけ。
その瞬間、それを「信一念」と申します。このご
和讃では「ひかりのいたるところ」と表現されて
います。
はじめて親と出会った歎喜です。親のいのちの
なかにあるよろこびです。なにがおこつてもびく
ともしない大安慰、おおいなるやすらぎです。



布施(ほどこし)

三月のこよみ

二日 出石組「法輪会」総会(西平寺)・勝林寺「法輪会」
三日 谷垣茂氏宅墓参

十四日 出石組寺族研究会(神戸)
十五日 兵庫教区連研研究会(神戸)

十六日 玉井敏介氏宅法事・光頭寺法事
十七日 玉井敏介氏宅法事例

十八日(土)十九日 津居山照禰寺彼岸会法話
二十日 谷垣なつ子氏宅法事・尾崎善立等彼岸会法話
二十一日 宮原義民氏宅法事・佐佐山惣兵衛翁役員会
二十三日 斎藤清忠氏宅法事・平野泰雄氏宅法事
二十四日 平野泰雄氏宅法事・藤木健一氏宅法事
二十五日 阿弥陀如来さまの慈悲は、人の愛のように盲目
ではない、何も彼も見通した智慧のうえでの慈
悲なのだということをおつしやつているのです。
無量の煩惱のなかにいる私、真実清浄から最
も遠いところでもがいている私のところねの底
の底まで見通し知りつくしたうえで、そのもの
をこそ救おうと、この生死煩惱のなかにはたら
いてくださる如來が阿弥陀如来さまです。
その智慧・慈悲の如來のはたらきが、いまよ
うやつと実を結んだのです。

二十六日 中島勉氏宅法事
二十七日 石田義雄氏宅法事
二十八日 勝林寺彼岸会法要
二十九日 田中幸一氏宅法事
三十日 坂本貢氏宅法事・成田花子氏宅法事

人を(自分の子ども・妻・親でさえも)清淨真
實に愛することもできないこの私が、それなるが
ゆえに、はるかにすべてを見とられおさめとられ
お慈悲のなかにからめとられています。どうぞあ
なたも、この如來のお慈悲を聞いてください。お
慈悲のなかで私とあなた、新たな「すえ通つた」
出会いをさせていたゞきましょう。
これが「常行大悲」といわれる愛のかたちなの
だと思います。

春の淡雪が 消えるように
なにひとつ
そこで ブツダは
「犀の角のことく
ひとりして 歩め
と教えられる。

当て頼りになるものは なかつた。

春彼岸会
三月二十四日(月)
午後二時

お彼岸は、「中道」という仏教のお
しえをふみ行うための行事です。
一方にかたより。何にとらわれて
対立し争つている私です。
その私が、平等一味によんでくださいた
る如來さまに出会わさせていただきます。
御同明という中道の、むづくみく
のです。如來のお慈悲を聞きましょう。

正法寺 山田武雄様

私のお念佛

仏社宮嶋千秋

いま、私の家のまえに「今日の一言」を掲示させていただいております。

和顔愛語（大無量寿經）

なごやかな顔

いつくしみのことば

いわなくとも

そつと問うてくださる

それがほとけさま。

わたしの家内は、「いつも見せてもらひ読ませてもらうけど、ほとけさんはだんまつとつて、なんにも言うておくれへん」といつています。

私は、「そんなことなかろうな。まあよう思ってみよ。親切にしておくれる人があろうな。勇気づけてくれる子どもあろうな。やさしく言うが、そんな人々を通して私に声をかけておくれとおくれる人があろうな。それはみんなほとけ様が、そんな人々を通して私に声をかけておくれとおくれる人があれへん、ぬくい家があるんだ。それだけじやあれへん、ぬくい家があつて、一日中働いて疲れても一晩休んだらまた元気にかえられる。いつもかわらんようにしておくれとる。ほかにもまんまとだようけいろいろあるんだで」と言つています。

家内は、「そんならわかる氣がするけど」と言つてはいますが、いえ、人ごとではなくて、いつも交らぬ日ぐらしがどれだけ有難いかは、悪い状態になつてみなければわからないし」と私のあります。

鳥のさえずりに
春すでにいたるを知る
漏れ出る 称名に

如来 つねにいますを知る。



子どものころ祖父や父母のお参りしている仏壇をみながら、わけわからぬままにおまいりして育ちました。近所の子どももおそらくみな同じことであつたと思います。

祖父や両親のしていることだから続けてゆかねばならんのかなあと思つて知らず知らずしているうちに、それでもいつの間にかお経さんもあげられるようになりました。

そのうちに大きくなつて、時代の流れのなかにいろいろと変つてゆく家々のことを見せていました。いたときに、家をまもり如来さまをおまつりさせていたゞくことがどれほど有難いことか

ということが、少しずづわかるような気がしてまいりました。

はじめは半信半疑でいても、続けている間に少しずつ気づかせていただくようになります。

うのでしようか。なんば信じてもなんば称えて、無の間ははれません。軽々と解きはなれた気持ちになれないのは一体どうしたことでございましょうか

信じたのに、お念佛称えたのに、懸命にたのんだのに……。

「信じたつもりだネ、念佛しているつもりだネ。でも本その信心不如実修行、一人含意の一人すもうの信心じやない。そのお念佛、名義不相応、それちがい、まとはすれ、見当違いの如来さまを自分勝手につくりあげ、いわば偶像崇拜、イワシの頭なんかを見てお念佛となえてるのじやないの。」

「とんでもないことだ。如来さまというのは、遠い遠いはるか彼方から、信じなさい称えなさいそしたら救つてあげようと座つて待つていてくださるような方ではないのだ。高い高いさつづつ氣づかせていただくよう思います。」

はじめは半信半疑でいても、続けている間に少しずつ気づかせていただくよう思います。

なにをしてかすか
わからない この手。

この手を 合わせ

この手と この手を

むすんで

平和。

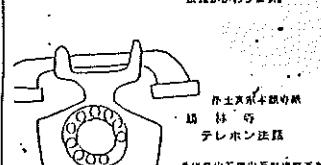


(079652) 5800番

いつもどこからでもダイヤルしてみてください

電話で聞ける 仏教法話

毎月十日㈮ごとに放送が行われます。



勝林寺

テレホン法話を

聞きましょ

仏社総会の報告

◇1月23日(日)午前中の理事会について午後一時半から仏社総会が開かれました。◇六十年度には会員数が急増し六十年度にかけては百三十人にもせまるいきおいです。役員の努力とその実績が一般に評価されたのだと思います。会員総会より会計にもゆとりが出て参りました。そのふん開気のなかで

六十年度へむけての積極的な運動展開の頑張りや計画が詰め合われ決議されました。◇四月二十七日(日)ソフトホール大会に統一して研修会そして夜の懇親会が計画されました。六月七日八日は奈良方面への研修旅行、十月五日別修報酬講習会を勝林寺仏社担当で開くことになりました。◇「他力ののみり」をもういちど聞きなおそうという意見がともども出され